



● 今月号の元気な話題 ●

水 漁	今期のシラス（カタクチイワシ仔魚）漁の操業が開始しました・・・・・・・・・・ 1 【水産漁港部】
林 振	林道「二口線」の通行規制を解除しました・・・・・・・・・・ 2 【林業振興部】
農 振	「だて正夢」仙台・黒川地域栽培塾を開催しました・・・・・・・・・・ 2 【農業振興部】
畜 振	ちびっ子リードマンたちが乳牛を従え行進・・・・・・・・・・ 3 【畜産振興部】
地 振	J R東日本との連携事業で 仙台・松島エリアの観光PRを行いました・・・・・・・・・・ 3 【地方振興部】
農 整	今年度も仙台地域の沿岸地において マラウイ共和国との技術研修を実施しました・・・・・・・・・・ 4 【農業農村整備部】

今期のシラス（カタクチイワシ仔魚）漁の操業が開始しました 【水産漁港部】

7月11日（木）に県南地域（宮城県漁協仙南支所）で今期のシラス漁が始まりました。

当地域の主力漁業は貝桁（かいげた）漁業（爪付き漁具により、赤貝などを漁獲する底びき網漁業）でしたが、震災による漁場へのガレキの残存、貝毒規制の長期化により、漁業や当地域の復興に支障をきたしていました。

このため、早期復興と地域経済の活性化、漁業経営の安定を図るため、当地域の漁業者を対象として、平成28年にシラス漁が新たに導入されました。

導入から今年で4年目を迎え、漁労技術も向上してきたほか、好調な漁場形成により、7月末時点の漁獲量は、対前年同時期の約35倍となる49トンと好スタートとなりました。

また、シラス漁は福島県が北限でしたが、この漁業の導入により、本県が北限となったため、「北限のしらす」として新たな特産物となること、そして地域のブランド化を目指し、関係者と連携しながら、その魅力を消費者へ発信していきます。



▲ 漁獲されたシラス（カタクチイワシ仔魚）



▲ 競りの様子

林道「二口線（ふたくちせん）」の通行規制を解除しました

【林業振興部】

仙台市太白区秋保町から山形市山寺地区を結ぶ林道「二口線」は、台風などの被害により、平成27年11月3日（火）を最後に山寺への通り抜けが出来ない状態となっていました。

この間、当事務所では、崩れた斜面の復旧や路面の舗装を行っていましたが、その工事がほぼ完成したことから、8月9日（金）午後1時に、車両の交通規制を解除し、山寺地区までの全線通行が可能となりました。

林道の延長距離は、宮城、山形合わせておよそ19km（林道終点からは県道を経てJR仙山線山寺駅まで約3km）となっており、仙台市から山寺地区までのルートとしては最短となっています。

沿道には、優美な峡谷や高低差150mの磐司岩の雄大な眺めを楽しむことができます。また、いにしえからの、陸前と羽前を結ぶ峠道のため、番所跡や鹽竈（しおがま）大明神の石碑など、往事が偲ばれる痕跡をみることもできます。

どなたでも通行可能ですが、大半は幅3.6mの一車線で、急坂、急カーブが連続する林道です。通行には、十分にご注意ください。



▲ 展望台からの眺め

林道「二口線」の情報

延 長：19,019m（全延長）

幅 員：3.6mから5.5m（宮城県側）

設計速度：20km

通行規制：①マイクロバス以上の大型不可

②夜間通行止め

③冬季閉鎖（11月上旬ごろ～6月下旬ごろ）

④大雨及び災害発生時閉鎖

「だて正夢」仙台・黒川地域栽培塾を開催しました

【農業振興部】

平成30年度に本格デビューした水稻新品種「だて正夢」は、もちもちとした食感で甘みが強く、冷めてもおいしいといった特徴を持つ水稻の新品種です。県では、みやぎ米ブランド戦略を掲げ、首都圏を中心に認知度の向上と販売の拡大に取り組んでいます。

仙台農業改良普及センター管内の今年度の作付面積は79haとなっており、登録生産者数も70人と増加したことから、きめ細かな栽培支援を行うため、7月11日（木）に仙台地域で、12日（金）に黒川地域で栽培塾を開催しました。



▲ 現地でだて正夢の生育状況を確認する生産者（黒川会場）

栽培塾では、高品質かつ安定生産のために重要な「追肥」について、試験データを基に説明した後、現地の水田に移動し、実際の生育状況を踏まえた追肥の判断や、生産者自らが生育状況を確認するための調査方法について実演を交えて説明しました。「だて正夢」は、これまでの品種と違った特性を持つことから、出席者からは栽培技術を習得しようとする熱心さがうかがえました。

地域栽培塾は今後2回の開催を計画しており、生産者のおいしいお米を消費者に届けるための努力は続きます。

ちびっ子リードマンたちが乳牛を従え行進

【畜産振興部】

6月22日（土）、みやぎ総合家畜市場において、宮城県ホルスタイン改良同志会主催による第54回宮城県ブラックアンドホワイトショウ（乳用牛の共進会）が開催されました。

県内各地から55頭の乳牛が参加し、月齢により10部に分かれ、審査が行われました。

その中で、ひときわ盛り上がったのは、子供たちがリードマンとして牛たちを従え、会場に入ってきた第1部（生後9ヶ月未満）でした。

この部は一番小さな乳牛の審査と合わせ、牛をリードする姿を競うリードマンコンテストも兼ねており、管内からも小学生の女の子が参加しました。真っ白な正装に身をつつんだちびっこリードマンたちは、日ごろから両親と共にブラッシングや調教をし、牛を引きつけ歩く練習を積み重ねた成果を頑張ってお披露目しました。

この中から全国共進会で日本一を目指す後継者が現れることを期待しています。



▲ 牛をリードする様子



▲ 審査のため牛を整列



▲ 共進会の受賞者のみなさん

J R東日本との連携事業で 仙台・松島エリアの観光PRを行いました

【地方振興部】

仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会仙台地域部会は、J R東日本と連携して仙台・松島エリアの観光情報をPRしました。

8月7日（水）と8日（木）には、仙台七夕まつりに合わせて運行された「フルーティアふくしま仙台七夕号」に乗車していた観光客の方々を、仙台駅のホームでむすび丸と一緒にお出迎えしました。その後、観光パンフレットの配布やキャラクターとの写真撮影などを行いました。

8月23日（金）にはJ Rバス東北が運行する定期観光バス「仙台お散歩号」に乗車する観光客の方々のお見送りと観光パンフレットの配布を行いました。「仙台お散歩号」のお見送りは9月20日（金）にも実施します。

両企画共に観光客に仙台・松島エリアをPRする絶好の機会となりました。



▲ フルーティアふくしま仙台七夕号とむすび丸



▲ 定期観光バスのお見送り

今年度も仙台地域の沿岸地において マラウイ共和国との技術研修を実施しました

【農業農村整備部】

宮城県では JICA（独立行政法人国際協力機構）と「みやぎ国際協力隊プロジェクト」の実施に係る合意書を締結し、平成22年度からアフリカ・マラウイ共和国へ農業水利分野の現地活動支援を行っています。さらに、平成23年度からは同国の技術研修生の受入れも実施し、令和元年度までに計29名の研修員を受け入れています。今年度は7月16日（火）から8月2日（金）までの18日間マラウイ共和国のかんがい技術者3名を研修員として受入れ、技術研修を行いました。

当事務所管内においては、7月18日（木）に農業土木技術を学ぶ現地研修を実施しました。東日本大震災の津波等で被害を受けた農地及び農地海岸の復旧状況や、復興に向けて大区画化された水田などを巡り、当部職員が説明を行いました。



▲ 当事務所への表敬訪問

マラウイ共和国には世界で9番目に広い淡水湖であるマラウイ湖がありますが、海に面していないため、研修員の皆さんは、津波被害の大きさに驚くとともに、自国のかんがい技術との相違点を学んでいる様子でした。

今回の技術研修を通じて学んだ農業土木技術がマラウイ共和国で活かされるとともに、本研修が宮城県とマラウイ共和国とのさらなる友好の一助となることを期待しています。



▲ 大区画ほ場整備事業の説明を受ける様子



▲ 農地海岸復旧事業の説明を受ける様子

【みやぎ水産の日】8月のおすすめは「アナゴ」

毎月第3水曜日は「みやぎ水産の日」です。
(水曜日の「すい」と第3の「さん」から)
8月のおすすめは「アナゴ」！

「みやぎ水産の日」について詳しくは、県水産業振興課の[ホームページ](#)をご覧ください。

